

帰り際には玄関で明石大使と記念写真を撮ってお別れをしました。

〔第5日目〕

今日はリトアニアに別れを告げる日です。午前11時15分再びフィンランドエアーに乗り込んだ私たち訪問団32名はビリニュス空港を離陸、リトアニアの地を後に次の訪問地フランス・パリへと向かいました。

この日は主に移動に費やす日となり、パリ・ドゴール空港へ着いたのは現地時間午後6時頃でした。空港を出る頃には辺りはすでに薄暗くなっていました。ちょうど帰宅ラッシュの時間帯に重なったこともありパリ市内のホテルに着いたのは午後8時を過ぎていました。

〔第6日目〕

パリの滞在は実質今日一日のみです。ホテルを9時にバスで出発、パリの市内観光に向かいました。エッフェル塔や凱旋門、シャンゼリゼ通りからコンコルド広場、ノートルダム大聖堂、そしてルーブル美術館などパリの主だった観光地を足早に視察しました。

〔第7~8日目〕

いよいよ今日はリトアニア欧州訪問の最後の日。ドゴール空港10時50分発のフィンランドエアーに三度び搭乗し、ヘルシンキ・ヴァンター国際空港を経て翌朝10月16日の午前9時に無事セントレア空港へ降り立つことができました。

今回のリトアニア欧州訪問の旅を終えて思うことは、杉原千畝氏が行った人道的な行為がいかに高く評価されているか、また日本がいかに平和で豊かな国であるかということを改めて認識したことです。ビリニュスでは杉原氏の名のついた通りや杉原氏を追悼する公園が造られ、またカウナスでは旧領事館を杉原ハウス

として保存し、ジャパンクラブという若い人たちの日本文化研究所にもなっています。私たちの町の先輩がかつて遠い異国を舞台に活躍し、信念に従って勇気ある決断を下したこと、その勇気ある人道的決断は、後の時代において高く評価され、国境を越えた異国の人々にもその精神が受け継がれていることを知ることができました。

また、今回の旅の訪問地はどこも要塞や城、街を取り囲む城壁というものが残されており、ヨーロッパは日本と違い国々が陸続きになっていることから、これまで絶えず他国や他民族からの侵略に備えてきたのだと感じました。今でこそリトアニアもフランスも平和を保っていますが世界を見渡せば未だに紛争が続いている国もあります。

日本も太平洋戦争という悲惨な時代を経験しましたが、戦後65年間、平和憲法を守り今日の繁栄を築いてきました。世界の人々が杉原さんの精神に学び、二度と悲惨な戦争や民族の迫害が起こらないよう人種や宗教、国境を超えて相互理解を深め、要塞や城壁のいらない世界を造っていくため、出身地である八百津町から世界に向けて杉原さんの精神を発信し続けていくことは大変素晴らしいことだと改めて思いました。そして今回のリトアニア欧州訪問団に随行できたことを大変光栄に思うと共に、吉田茂様並びに訪問団員の皆様や添乗員・通訳、関係皆様に心から感謝を申し上げます。

(レポート 林 達夫)



杉原千畝氏の母校である早稲田大学から寄贈された顕彰記念碑はサクラ公園の一隅にありました。



杉原千畝サクラ公園内にある「ひらしま祈りの石」は、爆心地付近にあった路面電車の敷石で作られたものです。



体育館のような半橋円形屋根の「リトアニア日本大使館」。



リトアニア日本大使館で明石大使と懇談する訪問団のみなさん。